

## 雜 纂

### ○獨逸フレーベル會のため

獨逸フレーベル會の窮乏に對して、同情ある寄附金募集の件は、別項に御覽の通りである。現在の獨逸の一般の状態を知らるゝ人には、これは多く説明を要しない程、明かに同情せられることである。同會からの手紙が届いたのは、此の夏のことであつて、丁度その時開催せられて居た文部省保育講習會に於て、取りあへず、手紙の趣を會員諸君に傳へた時、同情は立どころに金五拾餘圓の寄附金となつたのであつた。それから後、大阪市に於て、市保育會主催の講習會で、同様手紙の趣旨を傳へた時、また、直に多數の同情を得て、金七十一圓七十七錢の寄附金となつたのである。同會の書中にも、特に東洋に於ける、幼兒の友たる同志に向つて、同情を求むると書いてあつた。誰れにでも求めて居るのではない。平生志を同ふして、フレーベルの精神を理解し、尊重して居る我々に向つて、特に書を寄せられのである。記者は、獨逸に在つた時、親しく其の各種文化

事業の窮乏、殊に教育諸協會の事業の支障を見て居る。あの可憐な子供達のことも見て居る。諸君の同情を乞ふに當つて、其の裏書き者の一人となることが出来ぬ。一人でも多數の方によつて此の趣旨を賛成せられ、多少なりまごまつたものを、彼の名譽ある同志の會に贈りたいと願ふのである。(倉橋生)

### ○女學校同窓會の幼稚園

神奈川縣立高等女學校同窓會は、相澤校長其他會員諸君の熱心によつて、新たに幼稚園を新設して、天長節を以て開園式を舉げた。建築様式も、内部設備も、新意を用ふるもの多く、近來設立の幼稚園として、確に理想的なものである。幼稚園事業は今實に發達の新氣運にあるので、いろ／＼の種類の幼稚園の起ることを望ましく思ふが、高等女學校に附設せらるゝことも亦、最も喜ばしきことの一つである。それは幼稚園として、家庭的ならしめ得るに便であると共に、高等女學校の教育のためにも、極めて重要な意義を持ち得べきものである。本會も古くから、之れを主張しまた希望して居たのであるが、今、學校直接の附屬ではないが、同窓會員の設立によつ

て、實は女學校に密接に結びつけられて居るのは、此の希望の一つの實現として、喜びにたえない。將來益々内部的に充實完成して、家庭主義幼稚園の一模範となることを期待にたえないのである。

### ○信州上高井幼稚園

信州上高井郡内の各宗寺院聯合の奉仕事業として、幼稚園を新設せられたのも、近來の快事の一つである。各宗聯合事業といふ美はしい仕事としては勿論、寺院としての宗教的背景をもつての幼稚園を更に一つ加へたことも、斯界の欣慶事である。

### ○福島縣保育大會

福島縣保育會は郡山市、郡山幼稚園を會場として、十月十五、六、七の三日間の保育大會を開き、大會會員、研究、保育講習(講師倉橋氏)と、最も充實したる會合であつた。福島縣保育會が、其の幼稚園の數に於て未だ必ずしも多くないのに拘はらず、常に活潑なる研究向上に熱心なることは敬服にたえないことである。

第一日 十月十五日 (午前八時半開會)

一、開會之辭

二、祝辭

三、議事

I、建議題

2、協議題

四、研究發表

◎午後開成山競馬會觀覽

第二日 十月十六日 (午前八時ヨリ)

一、實地保育參觀

二、同 批評會

三、議事

I、協議題

2、談話題

四、研究發表

◎午餐

五、遊戲交換

六、閉會ノ辭

◎午後六時半ヨリ富士館ニ於テ幼稚園生活活動寫眞觀覽

第三日 十月十七日

保育講習會

午後三時解散

(午前八時半開會)

(午前十一時半マデ)

(午前八時ヨリ)

(午前十時ヨリ)

(午後四時マデ)

(午前八時開會)

(午後三時マデ)

以上

## ○松村博士の「童話及び兒童研究」

松村氏の此の新著は、此の方面に於ける、最も眞價あるものである。氏が神話傳説の學に於ける權威者であることは誰れも知るところであるが、其の科學的研究を基本として童話を取り扱ふ時に、兒童研究の方面からの歩みよりをせられたことは、童話をして眞に兒童の童話たらしめる上に、最も喜ぶべきことであつた。しかも又著者も序に於て言つて居られる通り、童話は實に極めて多方面の綜合的研究によつて、初めて其の正しい理解の出來るものであつて、此の點に於て、此の書が有して居る多方面の綜合性とは、此の書を永久に大ならしむる所以である、近來の好著として、殊に、幼兒教育必讀の書として推薦するものである（東京、培風館發行、定價金四圓五十錢）

## ○「幼兒之研究」の發刊

「幼兒之研究」が久保文學士を主幹として、新に發刑せられた。廣い意味の幼兒期即ち、幼稚園及び小

學校幼年級の幼兒の研究を主とするもので、斯界のために、有益なる一機關を加へた譯である。時運の生む處とはいへ、我國の此の方面の發達のために、甚だ有力なる味方である。益々發展することを祈つて已まない。

## ○「大日本家庭幼稚園」事業

前文部次官田所美治氏夫人を園長として、多數婦人教育家諸君を理事として、「大日本家庭幼稚園」といふ事業が創められた。通信教授式によつて、母の業といふ月刊雜誌と共に、玩具、繪本を月々家庭に頒布するのである。今までのところ、繪本も玩具も、苦心せられた新らしい點が多く、家庭に於ける幼兒のために、幸福を増すものと思はれる。幼兒教育のために、一種の新事業として其の發達を祈るものである。